

## 第4段階 ガリラヤの大宣教

### E. 十二使徒の任命と山上の教え

#### 8. 山上の教え、第7部：

神への愛が個人的な祈りを促す

デイリージーザスニュース #074

基本テキスト: MT 6.5-15 (パラレルテキスト: なし)

5 また、祈るときは、偽善者たちのようであってはならないと命じます。彼らは、人から見られるために会堂や通りの角に立って祈るのが好きなのです。よく言っておきますが、彼らはすでに報いを受けています。

6 しかし、祈るときは、あなたに命じる。自分の部屋に入り、戸を閉めて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。7 また、祈るときは、異邦人のように、むだ口ばかり言ってはならない。彼らは、口数が多いから、聞き入れられると思っているからである。8 彼らのようになってはならない。あなたがたの父は、あなたがたが願う前から、あなたがたに必要なことをご存じであるからである。

9 」そこで、祈るときには、いつもこのように祈りなさい。

「天におられるわたしたちの父よ、

あなたの御名が聖なるものと崇められますように。

10 あなたの王国を来させ、

天国と同じ態度で、地上でも御心が行われますように。

11 わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

12 わたしたちの負債をもお赦してください。わたしたちも自分に負債のある人を赦しました。

13 わたしたちを試みに会わせないで、悪い者からお救いください。 「

14 」もしあなたがたが、他人があなたに対して罪を犯したとき、それを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦して下さるであろう。15 しかし、もしあなたがたが他人の罪を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪を赦して下さらないであろう。 」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルーク = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

## 第4段階 ガリラヤの大宣教

コンテキストダイジェスト	
位置	ガリラヤの山で
タイムライン	西暦31年5月 ( 第16月 )
イエスの生涯	第4段階: ガリラヤの大宣教
	E. 十二使徒の任命と「山上の教え」
タイトル	8. 山上の教え、第7部： 神への愛が個人的な祈りを促す

コメント：

今日の朗読では、イエスは個人的な祈りの規律について教えられました。主は朝早く、まだ暗いうちに起きて、毎日人目につかない場所を見つけて個人的に祈ることを習慣にしていたことを私たちは見てきました ( DJN #055、#056)。このようにして、平均して 1 日に 2、3 時間祈っていました。イエスは弟子たちにも、同様に毎日個人的な祈りの規律を守ることを期待していました。この箇所で、イエスは個人的な祈りの基本原則について簡単に概説しています。

**イエスはまず、個人的な祈りに対する私たちの動機と準備について語りました。イエスは私たちに「偽善者のようであってはならない」と命じました。** 彼らは、祈る姿を見た人々から称賛を得るために祈りを捧げました。これらの人々は、自分たちの卓越した霊性に対する人間の認識を求めて、自分たちの祈りの生活に注目しました。私たちが偽善者を見習わないのであれば、誰を見習うべきでしょうか。

イエスだけが私たちの模範です。他のどんな祈りもイエスの模範に匹敵するものではありません。

次に、**イエスは私たちが個人的に祈ることを命じました。** その目的は、三位一体の存在と交わりの親密さを求めることなので、意識的に他のすべてのものに対して「ドアを閉めて」神だけに集中する決断をする必要があります。心がさまよったとき、私たちは粘り強くそれを神への追求に引き戻します。定期的に祈るための人里離れた場所を持つことは、毎日の祈りを実践するための素晴らしいリソースです。

イエスの個人的な祈りに関する 3 番目の戒めも、**異教徒の真似をしてはならない**というものでした。これは、**神に近づくときの私たちの態度に関するものです。** なぜ神は私たちと交わり、私たちの祈りを聞いてくれるのでしょうか。異教の宗教では、彼らの神は遠くにいて、彼らの要求に気付いていないか、積極的に彼らをいじめたり傷つけたりしようとしていると想定しています。異教徒は、神が次に自分たちに何をするかを恐れています。そのため、彼らは大きな音を立て、何度も何度も要求を繰り返し、神々の悪意を鎮めるために「犠牲」を捧げます。彼らは神々に自分たちに善行をするよう「説得」しなければなりません。

一方、キリスト教徒は、主イエス・キリストを通して、完全に義なる子 ( 「イエスの名において」 ) としての彼自身の資源と立場において、聖霊の力によって父なる神に近づきます。私たちの神は、私たちが気づく前から必要なものをすべてご存じであり、私たちがまだ神の敵であったときに、私たちのために御子を犠

## 第4段階 ガリラヤの大宣教

性にするほどに私たちを無条件に愛し、私たちがイエスを信じたときに、御子のすべての富をすでに与えてくださり、神の栄光のために、神の富に応じて私たちの必要をすべて満たす完璧な計画をお持ちです。

祈るときに神を説得する必要はありません。神が私たちに対して抱いている善良で完全な意志に同意するだけでよいのです。祈るたびに、これらのことを意識的に思い出す必要があります。イエスは私たちにそうするように命じました。

そこでイエスは次に、毎日、生活の特定の6つの分野について熱心に祈るというパターンに従うよう私たちに命じました。これが、イエスの」模範的な「祈りのパターン、いわゆる」主の祈り」の目的でした。イエスの意図は、私たちが単に祈りを繰り返すことではありませんでした。イエスは、弟子たちに6つの基本的な必要のそれぞれについて祈ることを望んでいました。イエスは、これらの要求のそれぞれにおいてギリシャ語の命令形を使用しました。これは、6つの必要をどれほど熱心に、熱心に、真剣に追求する必要があるかを強調するためでした。

6つの要求は、それぞれ3つずつ2つのグループに分けられました。最初のグループは、神に栄光をささげる必要性、つまり神が私たちの人生を支配してくださっていることを求める必要性から始まります。

の人格と性格、つまり神の」名前」を賛美することから始めます。祈りは、崇拝、賛美、感謝をもって神の善良さと偉大さに焦点を当てることから始まります。

次の願いは、神の王国が地上に来ることです。それは、私たちが」**すべての国の人々を弟子とする**」ことに忠実であるためです。私たちが個人的に神を崇拝するのと同じように、私たちのビジョンは、すべての人々が私たちと同じように神を崇拝することへの燃えるような願いへと拡大しなければなりません。

そして、3番目の願いは、私たちが神への愛から、天国の天使や軍勢と同じ喜びに満ちた礼拝の姿勢で、熱心に神に従うことです。天国では従順について不満を言うことはありません。従順の栄光に歓喜するだけです。これが、地上での私たちの姿勢です。これは、熱烈な祈りを通してのみ実現します。

2番目のクラスターは、私たちの最大の個人的な必要について述べています。最初のクラスターは」**日々の糧**」です。つまり、私たちが熱心に神に従うために必要なすべての物質的、ロジスティック的、精神的な必要を神が満たしてくださることです。神は、神の意志を実行するための力と資源を私たちに与えなければなりません。それは、私たち自身の罪深い能力をはるかに超えているからです。ですから、私たちは神の備えを祈り求めます。

2番目に私たちが個人的に必要としているのは、許しです。従順な態度と神の意志を行うための手段を求めるとき、私たちは常に、従順さにおいていかに自分が不十分であるかという現実と直面します。私たちは日々、許しと清めを必要としています。神は私たちを清めることを愛しておられます。自分自身の許しを祈ることは、他の人々を許す必要性にもつながります。それ以外に方法はありません。

赦しを受け、赦しを与えた後は、次に誘惑されたときに墮落しないように、聖霊の力によって神の意志を行うよう導かれるように祈る必要が残ります。こうして、私たちは、この成長の過程を可能にする神の性格と善良さに対して、神を崇拝し、賛美し、感謝することで、再び完全なサイクルに戻ります。

## 第4段階 ガリラヤの大宣教

毎日、これらの6つの願いを一つ一つ、熱心に真剣に祈る時間を取る弟子は、イエスに似た者へと成長します。そうしないのは不可能です。一方、これらの分野での成長を求めて毎日神と二人きりになって心を注ぎ出さない弟子は、これらの分野で成長しません。それは本当にそれほど単純なことです。これらの6つの繰り返しの祈りの願いは、生涯にわたってイエスに忠実に従う原動力となるのです。

イエスが教えの終わりにこれらの要求の1つだけを再度強調したというのは重要な意味があります。私たちが神に許しを乞うのと同じように心から他人を許さなければ、私たち自身も許されないままになるのです。ここでイエスは何と言っていたのでしょうか。

私たち自身の許し、そして他人の許しは、イエスがすべての罪を許すために死んだという事実に基づいています。イエスの死が他人の許しを与えるのに十分でなかったなら、私たち自身の許しを与えるのにも十分ではなかったことになります。これが問題の核心です。イエスの死はすべての罪を償ったか、あるいは何も償わなかったかのどちらかです。神に感謝すべきことに、イエスはすべての時代のすべての人々のすべての罪を償いました。したがって、私たち個人の許しと他人の許しはすべて、イエスの同じ犠牲に基づいています。

応用：

「**あなたが祈るとき...**」という言葉で始めました。イエスは、山上で教えを説いていた十二使徒や大勢の弟子たちが祈ると想定したのと同じように、私たちも祈ると想定していました。祈ることを学ぶ唯一の方法は、絶えず祈ることです。

**あなたは毎日いつ祈りますか？**

毎日のスケジュールの中に祈りの時間と場所が具体的に決められていないと、定期的に祈ることはないのでしょ。それだけです。

**すでに毎日の祈りの時間を決めている場合は、これらの6つの特定の願いに毎日どのようにさらに重点を置くのでしょうか。**

**毎日祈る時間を決めていない場合、いつから始めますか？どこで祈りますか？これら6つの願いをどのように祈りますか？**